

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270500248		
法人名	有限会社 中島介護サービスセンター		
事業所名	グループホーム すまいる (2階)		
所在地	静岡県熱海市福道町3番3号		
自己評価作成日	令和3年11月11日	評価結果市町村受理日	令和4月1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=2270500248-00&serviceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年もコロナウイルス感染防止のため、外出機会がとれないなかドライブレクや家庭菜園、駐車場の花壇の花作りなどで少しでも外の空気に触れられるよう工夫していきました。面会もできない状況が続いていますので、ご家族の方に対しては入居者様の元気な姿を見て頂けるよう毎月すまいる通信として日々の生活や行事の様子など写真でお知らせできるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者交代から1年、様々向上しています。家族アンケートには良い点も改善点も満遍なく記述してもらえ「言ったら聞いてもらえる」信頼と「よくやってくれている」感謝が伝わります。これまでは屋上の日光浴や玄関前の歩行訓練程度でしたが、海岸でジャガランタの花鑑賞に親しんだり、来宮神社へもよく足を運ぶようになってきました。食事は以前より評判が高かったもののPRが不十分だった点が改良され、写真入りの「すまいる通信」を毎月家族へ送るようになって「美味しそうな食事と本人の笑顔が見れて嬉しい」との声が届いています。管理者自身も研修に力を入れた手応えを感じており、職員の接遇や介助力の高まりも見られています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で安全安心な暮らしを支援していくサービスを職員と確認し「一緒に楽しく笑顔で」の理念に基づき継続できるようにしています。	理念は掲示するとともに、入社時にも心得の一環として説明しています。また接遇委員会では理念と重なる「一緒に楽しく笑顔で」ができているのか検証をおこない、その内容は全体会議につなげて現状認識と課題を共有させています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	本年もコロナウイルス感染予防の影響でお祭りやイベントが中止になったため地域との交流が持てませんでした。	訪問理美容は市内在住者なことから、利用者とは昔話に花が咲く日もあります。地域の年中行事「こがし祭り」の子ども神輿や山車は中止でしたが、今年はフラダンスとオカリナ演奏の慰問が1回ずつあり、ウイズコロナへ前進の兆しが見られます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響で、運営推進会議も開催されていないため、報告が不十分になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス対策で、運営推進会議を书面での開催として現在の状況などの報告をし、意見を頂くようにしている。	前任の管理者のときから運営推進会議の円滑実施が叶わず、なんとかしたいとした新管理者でしたが、本年度は1回に留まっています。今後は偶数月での定期開催にこぎ着けるべく、スケジュールを敷くなど準備を綿密に臨む所存です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは情報交換や相談等で電話連絡や行き来する機会を作っているため十分連携は取れている。	市役所は徒歩5分の場所にあり、入居相談や生活保護の利用者のことでよく出向いています。また来月に予定されている実地指導では、着任から未だ1年と浅く、前任との引きつぎが巧くなく解らない事もあるため現在は頻りに窓口に通っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には鍵はかけず自由に入出りできるようにしている。職員の見守り方法の徹底を継続できるように努め拘束ゼロの意識を高めている。身体拘束はありません。	現在身体拘束が必要な心神状態の利用者はいません。指針や新規採用職員や既存職員の研修プログラムを整備のうえ、身体拘束廃止委員会も3ヶ月毎に開催しています。特に委員会の協議内容は現場に即しており、原因と対策が示されていて優良です。	厚労省通達では「周知徹底」が謳われていますので、委員会議事録に回覧印があると、なお良いと思います。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在はまだ外部研修には、あまり参加できていないため、社内研修において虐待防止を学ぶ勉強会を定期的に行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・後見人制度は管理者が対応している。又、研修を通して職員が学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分に時間をとっています。料金・重度化した場合における対応・看取りに関する指針(医療連携)・ケアに関する考え方や取り組みなどについては、説明し理解していただき同意書に署名してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・ご家族にはどのようなことでもお話しして頂けるような雰囲気づくりを心がけています。頂いた意見・要望は、全体会議等で話し合い改善するように心がけています。	通信を毎月送るようになり「暮らしぶりがわかって良かった」「こんなによく笑っているんだ」との嬉しい声が聞かれています。1階の面会スペースまで行けない利用者のリモート面会には、事業所の機器が不十分なため家族持ち込みで実現できた例もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、個々で話し合う機会を設け、職員の意見や提案を聞くようにしている。又、ミーティングでも意見や要望を聞いている。職員の意見は、利用者のケアプランに反映するようにしている。	「利用者に合う低反発のマットが欲しい」「自助具を工夫したら自力で食事ができる」などの職員意見があがっていて、都度管理者が購入につなげ職員の意欲を支えています。他にも職員会議で「休憩時間の変更で働きやすくなるのでは？」と協議した例もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格所得に向けた支援を行い、職場内で生かせる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在はまだ外部研修の参加の機会が少なくなっているため、今後は受講できる様調整していく。施設内の研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の施設部会・連絡協議会に所属し、困ったことや疑問点がある場合に相談し互いに資質向上に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御面談でまとめた内容を職員間で、理解しています。本人の思いや不安を受け止められるよう十分な会話や共同作業で関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御本人との関係・苦勞・今までのサービス状況を聞き職員間で対応を共同で考えご家族との関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思いを聞き必要ならば、他事業所と連絡を取りサービスに繋がるよう柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに共同しながら穏やかな生活が送れるように環境作りや声掛けをし関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子は職員がご家族と話します。全体の様子は管理者が話しています。緊急時はご家族に連絡するとともに役割を分担しながらご家族・本人・職員との関係性を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス対策で、現在も外部の方との面会を中止せざるを得ないため、関係性が途切れるのではないかと心配している。	馴染みの美容院へ通う人、新聞購読を継続する人、家族の通院介助ではグルッと自宅周辺を廻ってもらえたり、家族と食事ができている人等々、コロナ禍で縮小されてはいますが、これまでの縁が続くよう職員も支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションが円滑にいくよう職員が調整役となっています。共通して関わられるようアクティビティなどの参加を促しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談に乗ったり、介護についてのアドバイスをしたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で声をかけ、本人の思いを把握できるように職員間で常に話し合いを行っています。	利用者の「アレ、食べたい」は速やかに厨房職員に伝えることがオペレーションに浸透していません。居室担当者を中心に利用者の要望を聞き取り、個別記録、申し送り、全体会議を通じて情報共有させ、家族には管理者が伝えて実現に向け協力を仰いでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規利用者には、家族より詳しく話を聞くようにしています。又、本人の記憶から情報を引き出して家族などと話をしながらサービス利用の経過などの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必要に応じて、担当者会議を行い職員と総合的に意見交換をして情報を共有し、利用者の現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が、自分らしく生活できるよう本人・家族の訴え・要望を聴いて調整し、反映できるよう日々のケアの中で話し合い定期的に介護計画を作成しています。申し送りや日報で全体が把握できるようにし、必要な場合は会議で確認している。	日報の裏側が申し送り記録になっていて、そこに記入していくことで全職員が日々確認できていますが、やはり本人に最も寄り添っている居室担当者が計画作成担当者にまずは状態を報告、その後全体会議で話し合っって策定につなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや状態変化は、個々の記録に記載し口頭での申し送りをを行い、情報共有の徹底を図っています。計画の見直しが必要な場合は、会議内で確認し活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の希望・状況を確認して、事業所内外の調整をし通院や送迎を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス対策もあり、消防・警察・市役所・地域包括支援センター・社会福祉協議会・ボランティア等に必要最低限の協力をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医や専門医での医療は継続して受診している。基本的に定期受診は家族対応となっているが不可能な場合は、調整して行っている。	協力医は看護師を帯同し、月2回の訪問診療を実施してくださっています。事業所では管理者とリーダーが立ちあい、記録は往診シートへの記入で管理しています。協力医は「いつでも連絡していいですよ」と言ってくださっていて、助かっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携として、最低週に1回の訪問を実施しており、入居者の健康状態を看護師と共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、家族と一緒に医療機関のソーシャルワーカーと連絡を取り合うようにしています。又、面会時に医師や看護師と定期的な話し合いを行い、早期退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化があるごとに、家族・医師・看護師と話し合いをしている。(本人の意思確認も含めて確認)必要時にカンファレンスを開催して終末期の方針を本人・家族と確認している。	「重度化した場合の看取り期における対応に関する指針」を備えており、契約時には管理者から説明をおこない、書面での合意を得ています。また気持ちや考えは変わることもあるため、折りに触れ家族には再確認するとともに、看取り時の対応研修も実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が急変や応急手当ができるように訪問看護師より指導を受けて、定期的に勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により、年2回防災避難訓練を実施している。	新採時には防災機器、緊急対応、避難経路などの説明をおこない、いつ起きても最低限の動きが可能となるようにしています。防災訓練は6月、11月と定め、併設事業所と合同で実施、消防署には火災報知器の警報作動に協力してもらっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会を中心に会議等で話し合いを行っている。利用者に対する声かけや口調が適切であるかを職員間で注意しあいながら対応している。	入社オリエンテーションでは利用者との関わりについて接遇面のレクチャーもおこなうとともに、毎月の接遇委員会でもNG事例を上げるなど学習を拡げています。全体会議では管理者が職員に更にかみ砕いて話し、必要に応じて面談時にも伝えていきます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人とのコミュニケーションを充実するとともに、要望を確認して、できる限り実現できるように取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、できる限り個別対応ができるよう柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出時には女性は化粧をしたり洋服選びをしたりと楽しまれています。日常生活の支援として、離床時の整髪・整容の支援も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(調理は職員対応)食事は、職員も利用者と一緒にDルームにて食事をし、共有の意識を持っています。	食器の選択や盛り付けがプロ仕様で映えるメニュー構成であることに長年定評があります。行事食も盛んで、おせちに歓喜した利用者が家族に報告したり、家族に撮影して送付したらわざわざ電話をくださった等、食が豊かなことでコミュニケーションも膨らんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取は記録に残して職員全員が把握できるように申し送りをしている。水分摂取量についても24時間単位で記録を取っている。体重測定は毎月行い、必要時に血液検査を施行し栄養状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、週1回歯科衛生士に訪問して頂き専門的アドバイスを受けている。毎食後の口腔衛生に力を入れており、誤嚥・肺炎予防につながっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンを排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄を心がけている。又、排便についても1日ごとに確認して、排便がないときは、医師の指示のもと下剤を使用して便秘にならぬよう支援している。	日中は全ての利用者にリハビリパンツで過ごしてもらい、トイレに誘導しています。快便は健康の元として毎朝乳製品を提供、排泄チェック表をつけて排便のあるなしに注視しています。ない場合は薬投与となり、それでも難しいときは訪問看護師に相談しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつに腸の活性に良い物を取り込んでいます。自然排便の意識を職員が共有している。ご家族の希望により栄養補助食品も活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を週2回に定めて入居者が習慣になるよう支援している。午前中の中の入浴が基本だが、希望に応じて曜日の変更なども行っている。	入浴では浴剤を使用していますが、冬は柚子を浮かべて季節を感じてもらおうようにしています。湯に浸かると気持ちがほどけて「ラーメンたべたいなあ」といった何気ない要望の発見に至っていますが、一方で浴槽をまたげなくなってシャワー浴となっている人も4名います。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝に向けての生活リズムの調整を行っています。日中に活動を多く取り入れて、夜間良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬は、入居の際に薬情報を見て職員が周知できるようにしている。又、服薬の変更時には申し送り時に報告している。必要に応じて協力医療機関に服薬の説明を本人・職員に指導して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	対話の中で入居者の興味や希望を聞きとり、調整している。グループホーム内でできる簡単な役割を設けて参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナウイルス対策でなかなか病院受診以外は、外出できないため、ドライブレクなどを行うようにしている。	コロナ禍を鑑み遠出はできないものの、人気のない場所を選んでこれまでできていなかったドライブが少し出来て今後期待が膨らむ状況となっています。駐車場で歩行訓練や屋上の日光浴は毎日おこない、育てている野菜の成長を眺めて楽しんでいます。	誤嚥の心配が低い場合は小さな食堂を貸し切るといった方法もあります。衛生に配慮しつつ、更なる前進があることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で所有されている方もいますが、現金は基本的には事務所での保管をしています。希望されるときはすぐに対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方もいますが電話や手紙については本人ができない場合は職員が対応するようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室だけでなく共用スペースも清掃など十分配慮している。入居者が生活に支障が無いかを意識している。又、共有スペースに季節ごとに季節を感じて頂けるような装飾を施しています。	日中皆が集まるリビングは季節の彩りが入るよう努めています。また週4日勤務の掃除専任職員にはコロナ対策としてコンタクトポイントの消毒を徹底するよう指示を出しており、職員も消毒が習慣となっていて、換気もこまめにおこなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	固定した自席を確保しています。隣同士の入居者の相性やADLを配慮して、安心して長時間リラックスできる環境を整えています。希望時は席替えも行なっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族協力の基に利用者の生活が充実できるような家具を配置しています。生活の中で使い勝手が良い方法が見つければその都度、家具の場所を変更しています。	絵画道具を自室に置く人は、描くときに使ってきたであろう机や椅子も併せて持ち込んでいます。ADLの状態変化には居室担当者が動線を見直し、全体会議でも話し合っており、本人がベストな環境で過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の意見を踏まえ、職員間で意見交換をして、よりよく改善できるように常に環境整備に取り組んでいます。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270500248		
法人名	有限会社 中島介護サービスセンター		
事業所名	グループホーム すまいる (3階)		
所在地	静岡県熱海市福道町3番3号		
自己評価作成日	令和3年11月11日	評価結果市町村受理日	令和4月1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2270500248-00&serviceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年もコロナウイルス感染防止のため、外出機会がとれないなかドライブレクや家庭菜園、駐車場の花壇の花作りなどで少しでも外の空気に触れられるよう工夫していきました。面会もできない状況が続いていますので、ご家族の方に対しては入居者様の元気な姿を見て頂けるよう毎月すまいる通信として日々の生活や行事の様子など写真でお知らせできるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者交代から1年、様々向上しています。家族アンケートには良い点も改善点も満遍なく記述してもらえ「言ったら聞いてもらえる」信頼と「よくやってくれている」感謝が伝わります。これまでは屋上の日光浴や玄関前の歩行訓練程度でしたが、海岸でジャガランタの花鑑賞に親しんだり、来宮神社へもよく足を運ぶようになっていきます。食事は以前より評判が高かったもののPRが不十分だった点が改良され、写真入りの「すまいる通信」を毎月家族へ送るようになって「美味しそうな食事と本人の笑顔が見れて嬉しい」との声が届いています。管理者自身も研修に力を入れた手応えを感じており、職員の接遇や介助力の高まりも見られています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で安全安心な暮らしを支援していくサービスを職員と確認し「一緒に楽しく笑顔で」の理念に基づき継続できるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年もコロナウイルス感染予防の影響でお祭りやイベントが中止になったため地域との交流が持てませんでした。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響で、運営推進会議も開催されていないため、報告が不十分になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス対策で、運営推進会議を書面での開催として現在の状況などの報告をし、意見を頂くようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは情報交換や相談等で電話連絡や行き来する機会を作っているため十分連携は取れている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には鍵はかけず自由に出入りできるようにしている。職員の見守り方法の徹底を継続できるように努め拘束ゼロの意識を高めている。身体拘束はありません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在はまだ外部研修には、あまり参加できていないため、社内研修において虐待防止を学ぶ勉強会を定期的に行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・後見人制度は管理者が対応している。又、研修を通して職員が学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分に時間をとっています。料金・重度化した場合における対応・看取りに関する指針(医療連携)・ケアに関する考え方や取り組みなどについては、説明し了解していただき同意書に署名をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・ご家族にはどのようなことでもお話しして頂けるような雰囲気づくりを心がけています。頂いた意見・要望は、全体会議等で話し合い改善するように心がけています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、個々で話し合う機会を設け、職員の意見や提案を聞くようにしている。又、ミーティングでも意見や要望を聞いている。職員の意見は、利用者のケアプランに反映するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格所得に向けた支援を行い、職場内で生かせる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在はまだ外部研修の参加の機会が少なくなっているため、今後は受講できるよう調整していく。施設内の研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の施設部会・連絡協議会に所属し、困ったことや疑問点がある場合に相談し互いに資質向上に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御面談でまとめた内容を職員間で、理解しあいます。本人の思いや不安を受け止められるよう十分な会話や共同作業で関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御本人との関係・苦勞・今までのサービス状況を聞き職員間で対応を共同で考えご家族との関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思いを聞き必要ならば、他事業所と連絡を取りサービスに繋がるよう柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに共同しながら穏やかな生活が送れるように環境作りや声掛けをし関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子は職員がご家族と話します。全体の様子は管理者が話しています。緊急時はご家族に連絡するとともに役割を分担しながらご家族・本人・職員との関係性を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス対策で、現在も外部の方との面会を中止せざるを得ないため、関係性が途切れるのではないかと心配している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションが円滑にいくよう職員が調整役となっています。共通して関わられるようアクティビティなどの参加を促しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談に乗ったり、介護についてのアドバイスをしたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で声をかけ、本人の思いを把握できるように職員間で常に話し合いを行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規利用者には、家族より詳しく話を聞くようにしています。又、本人の記憶から情報を引き出して家族などと話をしながらサービス利用の経過などの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必要に応じて、担当者会議を行い職員と総合的に意見交換をして情報を共有し、利用者の現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が、自分らしく生活できるよう本人・家族の訴え・要望を聴いて調整し、反映できるよう日々のケアの中で話し合い定期的に介護計画を作成しています。申し送りや日報で全体が把握できるようにし、必要な場合は会議で確認している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや状態変化は、個々の記録に記載し口頭での申し送りを行い、情報共有の徹底を図っています。計画の見直しが必要な場合は、会議内で確認し活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の希望・状況を確認して、事業所内外の調整をし通院や送迎を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス対策もあり、消防・警察・市役所・地域包括支援センター・社会福祉協議会・ボランティア等に必要最低限の協力をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医や専門医での医療は継続して受診している。基本的に定期受診は家族対応となっているが不可能な場合は、調整している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携として、週に1回の訪問を実施しており、入居者の健康状態を看護師と共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、家族と一緒に医療機関のソーシャルワーカーと連絡を取り合うようにしています。又、面会時に医師や看護師と定期的な話し合いを行い、早期退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化があるごとに、家族・医師・看護師と話し合いをしている。(本人の意思確認も含めて確認)必要時にカンファレンスを開催して終末期の方針を本人・家族と確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が急変や応急手当ができるように訪問看護師より指導を受けて、定期的に勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により、年2回防災避難訓練を実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会を中心に会議等で話し合いを行っている。利用者に対する声かけや口調が適切であるかを職員間で注意しあいながら対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人とのコミュニケーションを充実するとともに、要望を確認して、できる限り実現できるように取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、できる限り個別対応ができるよう柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出時には女性は化粧をしたり洋服選びをしたりと楽しまれています。日常生活の支援として、離床時の整髪・整容の支援も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(調理は職員対応)食事は、職員も利用者と一緒にDルームにて食事をし、共有の意識を持っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取は記録に残して職員全員が把握できるように申し送りをしている。水分摂取量についても24時間単位で記録を取っている。体重測定は毎月行い、必要時に血液検査を施行し栄養状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、週1回歯科衛生士に訪問して頂き専門的アドバイスを受けている。毎食後の口腔衛生に力を入れており、誤嚥・肺炎予防につながっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンを排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄を心がけている。又、排便についても1日ごとに確認して、排便がないときは、医師の指示のもと下剤を使用して便秘にならぬよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつに腸の活性に良い物を取り込んでいます。自然排便の意識を職員が共有している。ご家族の希望により栄養補助食品も活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を週2回に定めて入居者が習慣になるよう支援している。午前中の中の入浴が基本だが、希望に応じて曜日の変更なども行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝に向けての生活リズムの調整を行っています。日中に活動を多く取り入れて、夜間良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬は、入居の際に薬情報を見て職員が周知できるようにしている。又、服薬の変更時には申し送り時に報告している。必要に応じて協力医療機関に服薬の説明を本人・職員に指導して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	対話の中で入居者の興味や希望を聞きとり、調整している。グループホーム内での簡単な役割を設けて参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス対策でなかなか病院受診以外は、外出できないため、ドライブレクなどを行うようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で所有されている方もいますが、現金は基本的には事務所での保管をしています。希望されるときはすぐに使えるように対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方もいますが電話や手紙については本人ができない場合は職員が対応するようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室だけでなく共用スペースも清掃など十分配慮している。入居者が生活に支障が無いかを意識している。又、共有スペースに季節ごとに季節を感じて頂けるような装飾を施しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	固定した席を確保しています。隣同士の入居者の相性やADLを配慮して、安心して長時間リラックスできる環境を整えています。希望時は席替えも行なっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族協力の基に利用者の生活が充実できるような家具を配置しています。生活の中で使い勝手が良い方法が見つければその都度、家具の場所を変更しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の意見を踏まえ、職員間で意見交換をして、よりよく改善できるように常に環境整備に取り組んでいます。		